

2023年度 まちづくりワークショッププログラム@鳥取 開催結果

2023年度の“まちワケ”では、中心市街地の2つの公共空間を活用して、対象エリアでの事業化を検討しました。



主催：鳥取市・株式会社まるにわ、共催：鳥取市中心市街地活性化協議会

最終報告の概要：中心市街地エリア情報誌「わっか」vol.52より

まちづくりワークショッププログラム@鳥取 vol.3を開催しました!

鳥取市では、中心市街地の空き家・空き店舗などの遊休不動産を活用し、エリアの価値を高め、まちを再生する「リノベーションまちづくり」に取り組んでいます。

この取り組みのひとつとして、「都市部人材」と「地元人材」が「ユニット」を組み、リノベーションするための事業案を提案するワークショッププログラムを実施しています。

今年のテーマは『公共空間』。2チームに分かれ、対象エリアでの提案を行いました。



参加者インタビュー
森田さん (UNIT ②参加者)

UNIT ① 対象エリア：袋川沿いエリア『袋川周辺NEO商店街』



空き店舗を活用し若者世代にマッチしたレストランの開設、エリアの周遊性を高めるための情報発信(まちあるきMAP作成)、モビリティ整備(レンタサイクル)、滞在空間の創出(まちなかアウトドアカフェ)の事業アイデアが提案された。

①参加されたきっかけ

大学進学を機に地元である三重県を離れ、卒業後も鳥取で過ごすことを決めた中で、若いうちからなにか地域に貢献する活動を始めたいと思い、参加しました。

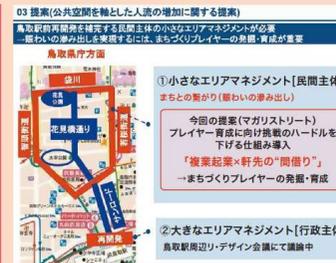
②参加してみた感想や意識が変わったこと

まちのことを真剣に考える中で「まちの人から求められていること」と「あったら良いな、やりたいな」と思うこととの乖離があり、その乖離を学ぶとともに、どう埋めていくかを考える機会となりました。

③今後チャレンジしてみたいこと

まちの人とのヒアリングを通して、関係性を築いていくとともに、自身もまちの人として馴染めるような活動を続けていきたいです!

UNIT ② 対象エリア：花見橋通りエリア『マガリストリート』



現在素通りしている朝の時間帯の通勤客に対し、朝食ブースによるおにぎり等の軽食提供アイデアを提案。さらにコミュニティ構築によるまちづくりプレイヤーの発掘・育成や不動産を間借りするマッチングプラットフォームの構築、さらには民間を主体とした小さなエリアマネジメントを目指していく方向性が提案された。